三菱商事

三菱商事の社会貢献活動

Moving forward with society

Contents

TOP MESSAGE ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

社会貢献活動理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
・三綱領
・社会貢献活動の原点
・企業行動指針／環境憲章／社会憲章

インクルーシブ社会の実現 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・DREAM AS ONE.
・母と子の自然教室／博物館・美術館プログラム／子どもの貧困支援

次世代の育成・自立 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
・三菱商事高校生海外留学奨学金
・三菱商事科学技術学生奨学金

環境の保全 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
・森林保全プロジェクト「三菱商事千年の森」（彌太郎の森）
・気候変動対策 Natural Climate Solutions（NCS）／サンゴ礁保全プロジェクト／熱帯林再生プロジェクト

災害支援 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
・復興支援について
・ボランティア活動／学生支援奨学金／産業復興・雇用創出支援／ふくしまワイナリープロジェクト

MCFA　三菱商事米州財団 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
・先住民族の人権保護および環境監視システム構築などを支援／野生生物保護協会への支援／先住民主導によるカリブー保護を支援

MCFEA　三菱商事欧州アフリカ基金 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
・持続可能な農業を支援／農家の生計向上へ／アフリカン・リーダーシップ・アカデミー

地図で見る社会貢献活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

数字で見る社会貢献活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

年表で見る社会貢献活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

TOP MESSAGE

継続性も大切にしながら
時代に合った三菱商事らしい活動を推進

代表取締役 社長　中西 勝也
2023年10月

三菱商事は、社是である「三綱領」を拠り所に、公正で健全な事業活動を推進するとともに、社会貢献活動にも積極的に取り組んできました。今年は、藤野 忠次郎社長（当時）の「利益が上がった時に利益の一部を社会貢献に回す、ということではなく、企業が存在する社会、コミュニティーへの参加費として一定のコストを負担すべき」という強い決意と覚悟に基づき、1973年に「社会環境室」を設立してから50年という大きな節目の年となります。

世界のビジネス環境が大きく変化する中、企業の社会に対する責任はますます広範囲に及んでいます。当社は、ビジネス環境の変化に柔軟に対応するとともに、社会に対する責任についても、これを果たすべく一貫して取り組んできました。「所期奉公・処事光明・立業貿易」という三綱領に込められた精神は、今も変わることなく私たち役職員一人ひとりに脈々と受け継がれています。

当社の社会貢献活動は、時代とともに変化を重ねてきました。最近の取り組みでは、2020年に日本国内の子どもの貧困問題への対応、2022年には気候変動対策と同時に地域社会への支援と生物多様性の保全への寄与をも目指した気候変動対策（Natural Climate Solutions）が南アフリカでスタートしました。

一方、ひとり親家庭の母子を対象にした「母と子の自然教室」、熱帯林再生プロジェクト、サンゴ礁保全プロジェクト、パラアスリート支援など、長年継続して取り組んでいる活動も少なくありません。また、国内外で自然災害が発生した際には、多くの社員ボランティアが現地へ行き、地域に寄り添いながら活動を支えている点も特長です。

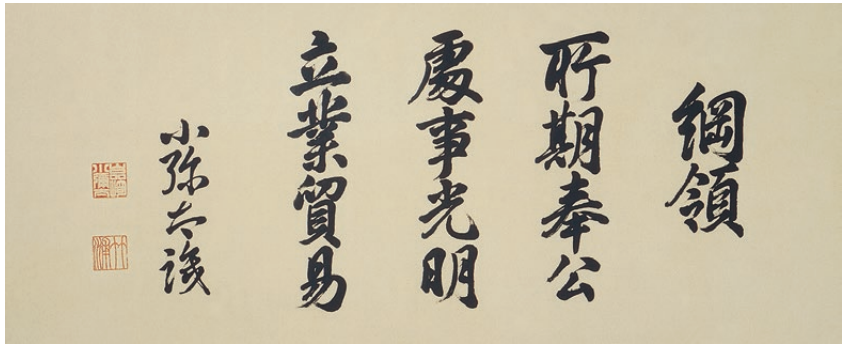
変化の激しい時代において、社会貢献活動の形もその時々で変化していくことが求められますが、引き続き継続性も大切にしながら、社会課題をしっかり見極め、「社会と共に成長する企業であり続けたい」という思いを胸に、当社ならではの特色を生かした社会貢献活動を推進していきます。

社会貢献活動理念

社会のため、次世代のため、地球のために、
私たちができること

三菱商事の企業文化には、社是である三綱領を拠り所に、真に豊かな社会の実現を目指して、地域社会や国際社会とともに発展していこうという思いが深く根を下ろしています。1973年には、「企業は社会の一員として社会貢献事業を積極的に行うべきで、そのための経費は企業が社会で存続するための社会的経費（ソーシャルコスト）として、利益を得る前に負担しなければならない」という認識の下、「社会環境室」が設立されました。以来私たちは、より豊かな社会づくりに貢献すべく、自ら考え実践する社会貢献活動を推進しています。

三綱領



「三綱領」は、1920年の三菱四代社長岩崎小彌太の訓諭をもとに、1934年に旧三菱商事の行動指針として制定されたものです。旧三菱商事は1947年に解散しましたが、三菱商事においてもこの三綱領は企業理念となり、その精神は役職員一人一人の心の中に息づいています。

所期奉公

事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する。

処事光明

公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する。

立業貿易

全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る。

社会貢献活動の原点

1973年7月19日、藤野 忠次郎社長（当時）は世界貿易センターで、社会貢献の重要性について講演しました。これをきっかけに、同年10月、実質的に三菱商事の社会貢献活動がスタートします。三菱商事の社会貢献活動の原点と位置付けられる藤野社長講演を抜粋して紹介します。

「企業の責任」について

元代表取締役社長　**藤野 忠次郎**

豊かさの時代には、人間の生き方について価値観に大きな変化が見られると同時に、成長経済時代のひずみがこれに拍車をかけ、企業の社会に対する責任ということについて、企業特に大企業は、根本的に考え直さなければならない時に来たと考えられます。特に大企業のレゾンデートルは、期間損益の大小によって判断されるべきものではなく、長期的なダイナミズムあるいは長期的な視野に立って、情勢の変化に順応する柔軟な体質を持っているかどうかによって、その存在価値を判断されるべきであります。従って企業は、その企業活動を通じて（生ずる有形無形の）社会的コストをまず負担し、企業としての社会のserviceを提供した後に、利益を享受すべきであるということであります。

今後企業は、社会的コストをいかに負担し、住民の自由といかに合致して、住民あるいは個人を抑圧しない環境を整備するかというようなことについて、一般に公表すべきような形を取るべきではないかと考えます。

また、企業は本質的には利潤を追求してその上でもって生存していられるのでありますから、その社会的責任の果たし方も、単純な慈善事業を行うのであっては長続きすることではないと考えられ、企業は企業らしく、短期的に採算がとれなくても長期的にはあるいは採算のとれるかもしれぬといった採算分岐点上のプロジェクトに、積極的に立ち向かうべきであり、かかるプロジェクトが、住民の福祉に関連のある情報・技術・機器の開発であれば申し分のないこととなろうかと考えます。（一部抜粋）

企業行動指針

1 企業活動の目的	我が社は、事業を通じ、企業価値の向上を図るとともに、有用なサービス・商品を安全性にも配慮して創出・提供し、物心共に豊かな社会の実現に努める。
2 公明正大な企業活動	我が社は、企業活動の展開に当たり、諸法規、国際的な取決め及び社内規程を遵守するとともに、社会規範に沿った責任ある行動をとる。
3 人権・社員の尊重	我が社は、人権を尊重し、差別を行わない。また、人材育成を通じて企業活力の維持・向上を図るとともに、社員の人格・個性を尊重する。
4 情報の管理・公開	我が社は、企業情報を適切に管理するとともに、ステークホルダーを含め社会一般からの正しい理解を得、透明性の保持を図るため、情報を適時・適切に公開する。
5 地球環境への配慮	我が社は、地球環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、企業活動のあらゆる面において地球環境の保全に努め、持続可能な発展を目指す。
6 社会貢献活動	我が社は、社会の一員として、より良い社会の実現に向けて積極的に社会貢献活動を行う。また、社員による自発的な社会貢献活動を支援する。

環境憲章

三菱商事は、地球が最大のステークホルダーであると認識し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指します。

- 私たちは、新技術や新たな仕組みを活用し、温室効果ガスの削減に取り組みます。
- 私たちは、資源（エネルギー、鉱物、食料、水等）の持続可能な利用に努めます。
- 私たちは、生態系がもたらす様々な恩恵の重要性を認識し、生物多様性への影響を緩和するとともにその保全に貢献します。
- 私たちは、汚染の防止を含む環境負荷低減や環境保全によって生じる環境価値の創出・向上に努めます。
- 私たちは、環境に関する企業情報を適時・適切に開示し、多様なステークホルダーとのコミュニケーション・協働を推進します。
- 私たちは、環境諸法規を遵守するとともに、国際行動規範に則した行動を取ります。

社会憲章

三菱商事は、企業活動の展開を通じ、中長期的な視点で社会課題の解決に貢献することにより、持続可能な社会の実現を目指します。

- 私たちは、私たちの事業を通じて、地域・コミュニティの社会課題の解決に貢献し、健全で持続的な発展に寄与することを目指します。
- 私たちは、時代の要請にこたえ、常に新たな課題認識をもって社会貢献活動を継続していきます。
- 私たちは、人権及び先住民の権利を尊重する責任を果たします。
- 私たちは、労働における基本的権利を尊重するとともに、安全や健康面も含め適切な労働環境の確保に努めます。
- 私たちは、腐敗・汚職に関与せず、その防止に取り組みます。
- 私たちは、社会との関わりについての企業情報を適時・適切に開示し、多様なステークホルダーとの対話と協議を積極的に推進します。

社会貢献活動の3つの軸

三菱商事は、「インクルーシブ社会の実現」「次世代の育成・自立」「環境の保全」の3つの軸に沿った活動、および「災害支援（東日本大震災復興支援を含む）」を実施しています。世界各地の社員が自発的に参加して汗を流すとともに、継続して活動に取り組むことを重視しています。

P6-7
1. インクルーシブ社会の実現

P8-9
2. 次世代の育成・自立

P10-11
3. 環境の保全

P12-13
災害支援

インクルーシブ社会の実現

三菱商事は、誰もが生き生きと
活躍できる社会を目指しています。
多様な生き方が存在する今、
それぞれを尊重し共生できる世の中になるよう、
活動を続けています。

DREAM AS ONE.

Project in Support of Para-Sports
～ともに一つになり、夢に向かって～

1979年、障がい者の自立と社会参加支援を行う「太陽の家」（大分県別府市）と出会って以来、三菱商事では特別な思いを持って障がい者への支援、福祉活動に取り組んできました。今や世界規模の大会となった「大分国際車いすマラソン大会」を1991年から支援するなど、パラスポーツの振興にも注力。2014年、パラスポーツへのさらなる支援を目指して立ち上げたのがDREAM AS ONE.プロジェクトです。競技団体や大会への協賛の他、障がい児向けスポーツ教室、イベントの開催支援、所属パラアスリートへの支援など、幅広い活動を行っています。

誰もが夢を叶えられる社会の実現へ

認定NPO法人キッズドア　渡辺 由美子 理事長

当団体では、生まれた家庭環境によって子どもに教育の格差が生じてはならず、誰もが夢を叶えられる社会を実現したいとの思いから、無料の学習会事業を東京都周辺と宮城県で展開してきました。これをさらに拡大していくために、全国にある子ども支援団体に対して学習支援のノウハウを広げていく活動を、2020年から三菱商事と協働で進めています。当団体が培ってきた学習支援の仕組みを全国に移転していくことにより、直接的に子どもたちを支援する何倍もの成果を生み出すことができると考えており、新しい支援のスタイルとして三菱商事のご理解とサポートに感謝しています。

母と子の自然教室

1974年から約半世紀にわたって継続している、ひとり親家庭の母子を対象にした、人や自然の触れ合いを体験するキャンプです。子どもたちが自然の中でのびのび遊び、お母さんたちが普段の仕事や家事を忘れて楽しみつつ母親同士が交流できる場にもなっています。山歩きや水遊び、キャンプファイヤーなどのプログラムは、社員ボランティアが何カ月にもわたって計画し、作り上げたもの。これまでに約18,000名の親子と1,000名以上の社員が参加しています。

博物館・美術館プログラム

障がいがある方々を対象として、閉館後や休館日の博物館・美術館を貸し切り、展示を楽しんでいただくプログラムを定期的に開催しています。各博物館・美術館と協働し、社員ボランティアが車いすの介助や館内誘導などのサポートを行う形で運営。2005年11月の活動スタート以来、これまでに東京国立博物館、国立科学博物館、東京国立近代美術館、国立新美術館などに、皆様をご招待しています。

子どもの貧困支援

2020年より国内の子どもの貧困問題に関するプログラムを支援しています。認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえを通じた「こども食堂の複合的価値を捉える指標開発・測定を行う事業」では、調査、測定、分析を基にこども食堂の増加に向けて働きかけを実施。認定NPO法人キッズドアを通じた「子ども向け学習支援事業のノウハウ全国展開プロジェクト」では、生活困窮家庭の子どもの学習をサポートしたい団体のための研修支援も行っています。こども食堂や無料学習会には、多くの社員がボランティアとして参加しています。

これまでの活動

1 グリーンリボン ランニング フェスティバル
2 西オーストラリア州交響楽団（WASO）活動支援
3 スマイルアフリカプロジェクト

三菱商事
高校生海外留学奨学金

2019年、世界的な教育団体である公益財団法人AFS日本協会(AFS)が日本の高校生を対象にした年間派遣(留学)プログラムについて、参加費全額を支援する奨学金を創設しました。同プログラムは、約10カ月間の通学とホームステイを基本としたカリキュラムで、異文化理解を深め、他者への理解力や共感力を養うものです。三菱商事は、奨学金の給付を通じて、留学に興味を持ちながら経済的な事情で踏み切れずにいる全国の高校生に広く門戸を開き、将来のグローバル人材を育成することを目指しています。

初年度は募集人数20名からスタートし、現在は年間最大70名に拡大しています。

次世代の育成・自立

私たちの未来を担う次世代を育成し、
その成長と自立を支え促進するため、
三菱商事では教育、研究、能力開発の支援などに
積極的に取り組んでいきます。

次世代が夢に向かって挑戦できるように

公益財団法人AFS日本協会　加藤 暁子 理事長

多くの日本の高校生が海外へ夢を馳せ、異文化体験をする年間留学の奨学金を支給していただき感謝に堪えません。

21世紀だというのに人類は愚かにも再び戦争や内戦を繰り返し、無実の人々が毎日、命を落としています。日本の高校生からは、「ウクライナ、イラク、パレスチナ、シリアなどから逃げてきた同世代と学校で学び、その現実と向き合い平和を希求することの重要性に初めて気づいた」との声が寄せられています。

日本から世界へ、世界から日本へ多感な高校時代に宗教や人種などを越えて共に相手を理解する留学こそ地球の未来のための種まきになります。一人でも多くの次世代が夢に向かって挑戦できるために共に研鑽したいと思います。

三菱商事
科学技術学生奨学金

写真はイメージです。

2021年、日本国際教育支援協会（JEES）の冠奨学金として、これまで三菱商事が未着手だった国内の大学院生（博士課程）を対象に創設しました。

国内の科学技術学生人材空洞化が問題となっている状況を踏まえ、大学等にヒアリングを実施。これまで支援制度の少なかった大学院生（博士課程）に対し、経済的な不安を払拭することで、博士課程へ進学することを後押しし、わが国の科学技術人材育成に寄与することを目的としています。

現在は、年間10名程度を支援しています。

これまでの活動

1

4

2

5

3

©Michiko Yamamoto

6

1 小学校修復プロジェクト（南アフリカ）
2 えほんのがっこう
3 はじめてのクラシック
4 MC International Scholarship
5 三菱商事留学生奨学金
6 三菱商事アート・ゲート・プログラム

環境の保全

森林保全プロジェクト
「三菱商事 千年の森」（彌太郎の森）

三菱商事では、三菱グループの創業者である岩崎彌太郎の生誕地、高知県安芸市において、森づくり事業を進めています。同市の山林を社有林として保有する他、2009年、高知県、安芸市、高知東部森林組合との四者で森林保全パートナーズ協定を締結。市有林の一部を含めた263haを「三菱商事　千年の森」（通称：彌太郎の森）と名付け、森林整備を実施しています。水源涵養など森林の公益機能増進のための保全活動に加え、ボランティア活動、環境教育の場としてもこの森を活用しています。

かけがえのない地球環境を未来へと伝え、
人と自然が調和した
豊かな社会を実現するため、
三菱商事は地球環境の保全に
取り組んでいます。

サステナビリティ変革のリーダーとして期待

アメリア・ジュール さん
コンサベーション・インターナショナル・ジャパン

コンサベーション・インターナショナルは、三菱商事と長年にわたり良好なパートナーシップを築いてきました。当初はNGOのステークホルダー・アドバイザリーとしてスタートしましたが、最近では自然を活用した気候変動対策（NCS）の南アフリカ放牧地回復プロジェクトへと発展しています。三菱商事は、カーボンと気候変動への取り組みに常に強い意欲を持たれ、社内で一致団結するために努力してこられました。これからも三菱商事が日本におけるサステナビリティ変革（SX/GX）の先見的リーダーとして台頭されることを期待しています。

科学的知恵を共有し、未来に希望を

特任教授　鈴木 款 博士
静岡大学 創造科学技術大学院

「環境保全や再生」のためには、科学的データ・根拠とそれを理解する多くの人の協力が必要です。本プロジェクトでは、サンゴの白化原因や温暖化でのサンゴの生存戦略を明らかにするとともに、社内外からボランティアを受け入れ、調査研究活動への参加を通じて、その成果を共有し、サンゴ礁保全への理解を深めていただいています。今私たちに必要なのは気候変動・生物多様性・カーボンニュトラル等、暮らしに関わる大切な問題といかに向き合い、具体的な行動指針につなげるための機会を共創することです。サンゴ礁保全の取り組みは、これらを考える良い場であり、三菱商事の支援継続がそうした活動をより確かなものにすると確信しています。

気候変動対策 Natural Climate Solutions（NCS）

自然の力を活用した気候変動対策（Natural Climate Solutions、NCS）にはさまざまな方法がありますが、三菱商事が注目したのは、放牧地や森林を守ることで植物によるCO_2の吸収量を保ちつつ、土壌や植物に貯留されているCO_2が大気中に放出されることを防ぐ手法です。南アフリカのダーバン近郊では、コンサベーション・インターナショナルと協業し、地域コミュニティの協力の下、放牧地の保全に取り組んでいます。同時に、牧畜業の質の向上や水資源の保全を通した地域住民の生活レベル向上、さらには生物多様性の保全への寄与も目指しています。

サンゴ礁保全プロジェクト

2005年に沖縄でスタートした本プロジェクトでは、静岡大学の鈴木 款教授をプロジェクトリーダーに、サンゴの白化現象の原因とメカニズムの解明、サンゴ礁の健全性保持および白化回復技術の確立・普及のための研究を実施しています。調査研究活動に参加することで環境問題への理解を深めるプログラムも行ってきました。琉球大学熱帯生物圏研究センターにおけるサンゴの白化現象の機構やサンゴ内部の環境を初めて明らかにした2012年の論文が国際サンゴ礁学会の「最優秀論文賞」を受賞しました。現在、オーストラリアのグレートバリアリーフにおいても、季節変化や光、温度、水質がサンゴに与える影響を評価する研究を支援しています。

熱帯林再生プロジェクト

熱帯林は生物種の宝庫といわれ、その減少は、生物の多様性に大きな影響を与えます。また、CO_2の吸収源である熱帯林が失われることによって、地球温暖化や、異常気象・自然災害にも影響を及ぼします。三菱商事は、1990年に「マレーシア熱帯林再生プロジェクト」を開始以来、サラワク州で潜在自然植生理論に基づく森づくりを推進。当時、横浜国立大学の教授だった故宮脇 昭博士の研究に基づき、現地固有の植物を密植・混植方式で植林することで、40～50年の短期間で自然林に近い生態系によみがえらせることを目指しています。約50haの実験地に植栽した約30万本の苗木は、30余年を経過した現在、高いもので20m以上にまで生長し、熱帯林の力強い再生が確認できます。

これまでの活動

1 熱帯林再生プロジェクト（ブラジル）
2 サンゴ礁保全プロジェクト（セーシェル）
3 中国緑化基金会との生態モデル林プロジェクト

災害支援

三菱商事は、災害時の緊急支援活動および
被災地の復興支援活動に取り組んでいます。
被災地のニーズに寄り添いながら、
社会の一員としての役割を果たしていきます。

復興支援について

私たちは、災害で被害を受けた地域に向けて、国内外を問わずさまざまな支援活動を行っています。

2011年の東日本大震災では、「復興支援に何よりも必要なことは『迅速性』と『継続性』」との考えから、発災翌月には4年間総額100億円の『三菱商事東日本大震災復興支援基金』を創設（その後2015年に35億円を追加拠出）。「義捐金や緊急支援物資・機器の提供」、「就学困難に陥った学生への奨学金」、「復興に取り組むNPO等への助成」、「社員ボランティアの派遣」など、現地のニーズに合った支援を展開してきました。2012年春には「公益財団法人 三菱商事復興支援財団」を設立、約10年にわたり、被災地の経済復興に向けた産業再生や雇用創出に向けた支援を続けてきました。

この他、世界各国の地震や豪雨などによる被害を受けた地域において、多くの社員の自発的な協力の下、地域拠点とも連携しながら復興支援に取り組むなど、幅広い災害支援活動を続けています。

東日本大震災 復興支援活動

東日本大震災の被災地では、さまざまな支援活動を展開。
10年にわたって取り組んできた活動の一部をご紹介します。

ボランティア活動

「自分たちも実際に現地に行って手伝えることはないか」という社員の声から始まったボランティア活動には、2011年4月から10年間で延べ4,958名の社員が参加。瓦礫除去や泥出し作業に汗を流しました。被災地からは、「『自分たちは一人ではないんだ』と勇気づけられた」との声もいただきました。

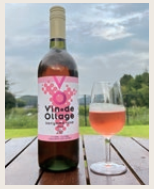
学生支援奨学金

被災地では、自宅家屋の損失や保護者の失職などにより、多くの学生が就学困難な状況に陥りました。こうした学生への奨学金支援を通じて、社会へ羽ばたくのを後押ししました。2019年度に対象者全員への給付が完了。2011年度からの支給者数は、累計4,907名に上ります。多くの学生が学業を継続して夢を叶え、今では社会の第一線でそれぞれに活躍しています。

産業復興・雇用創出支援

産業復興・雇用創出を目的に、事業の再建や新規事業の立ち上げを目指す事業者に投融資を実施しました。寄附ではなく、投融資による支援としたのは、「返さなくてはならないお金であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支える」との考えによるものです。最長10年間、事業が軌道に乗るまでは元本や利子の支払いは発生しない、配当は復興支援活動などに再利用するといったスキームに加え、販路開拓やマーケティングのサポートも行い、地域を支えました。

ふくしまワイナリープロジェクト



2015年、地域経済活性化と風評被害払拭のため、三菱商事復興支援財団が福島県郡山市と連携協定を締結し、果樹農業の6次産業化プロジェクトを開始、建設したワイナリー施設を、一般社団法人ふくしま逢瀬ワイナリーが使用して、果物の生産、加工、販売を手掛けています。2019年には郡山市産ブドウで作ったワインを発売、その後リンゴのシードルで国際的な賞を受賞、ワインでもコンクールで賞を受賞するなど地域に根差した商品・ブランドづくりを進めています。

MCFA 三菱商事米州財団

Mitsubishi Corporation Foundation for the Americas

1991年に三菱商事と米国三菱商事が設立した財団です。「生物多様性の保全」、「持続可能な開発」、「環境教育」、「環境正義」をテーマに、米州の社会課題の解決に寄与するさまざまな活動を支援しています。

先住民族の人権保護および環境監視システム構築などを支援

Equitable Origin (EO) は、企業、コミュニティ、政府と協力し、エネルギーや天然資源の透明性、公平性、持続可能な開発を支援する目的で、2009年に設立されました。エネルギー産業における認証制度の確立を目指し、メキシコの天然資源プロジェクトの環境および社会的影響評価を実施する取り組みに対し、MCFAは支援を実施。2023年現在、北米で生産された天然ガスの約15%が、EOの規格に基づいて認証されています。また、先住民向けのプラットフォームであるCEFO Indigenaの立ち上げにも協力。メキシコ、ペルー、エクアドルでアクセスを増やし、違法な森林伐採の防止に向けたコミュニティ主導の環境監視が可能となっています。

野生生物保護協会への支援

野生生物保護協会(WCS)は、野生生物やその生活環境を保護することを目的に、1895年に設立されました。ニューヨーク市の動物園や水族館を訪れる年間350万の来場者に対し、自然への関心を高めてもらう活動を推進しています。また、世界50カ国以上で野生生物の保護活動を行っており、245の保護区の創設や拡大を支援してきました。2003年以来、MCFAはWCSに約300万ドルの寄付を実施。ブロンクス動物園(ニューヨーク)の遊歩道建設やパタゴニアの海洋保護区の創設、ブラジルとペルーの流域保全などに貢献しています。

先住民主導によるカリブー保護を支援

Yellowstone to Yukon (Y2Y)は、米国のイエローストーンからカナダのユーコン準州に至る野生動物の生息地の保護を目指し、1993年に設立されました。MCFAは、2018年から資金援助を行い、先住民主導による土地保全、近年減少傾向にあるカナディアンロッキーのカリブー保護活動をサポートしています。カリブーの保護を目指して、先住民族、ブリティッシュコロンビア州、カナダ政府の間で締結された歴史的なパートナーシップ協定にも、Y2Yは支援を行っています。

持続可能な農業を支援

2017年度から、世界約60カ国で活動する国際的な非営利団体レインフォレスト・アライアンスを支援しています。同団体は農業生産者、森林コミュニティ、企業、消費者と協力し、基準を満たすコーヒー、カカオ、紅茶、バナナ等の農産物に付与される「レインフォレスト・アライアンス認証」を通して、持続可能な農業や責任あるサプライチェーンを促進しています。2023年度の事業では、ケニアの森林協会や地域の人々への研修や環境教育を通して、ケニア山地域の持続可能で健全な景観の再生を支援しています。

農家の生計向上へ

ファーム・アフリカは、「人と自然が共生可能なアフリカの農村づくり」をミッションに掲げる英国のNGOです。アフリカ東部の土地再生、気候変動に強いビジネスの構築、農作物の生産性向上を通して農家の貧困削減に取り組んでおり、MCFEAはこうした活動を継続的に支援しています。2023年度は、エチオピアのベール・エコ地域において、生物多様性や森林を保全しながら、地域のコーヒー農家が生計向上を目指すプロジェクトを支援。森林保全に配慮した生産技術の促進、品質改善やマーケティングに関する研修なども提供しています。

アフリカン・リーダーシップ・アカデミー

「アフリカン・リーダーシップ・アカデミー（ALA）」（南アフリカ　ヨハネスブルグ）は、大学入学資格課程の教育プログラムの提供や、アフリカの課題解決に取り組む若者のネットワーク構築を通じて、将来のアフリカの発展を担うリーダー育成に努める教育機関です。MCFEAは2022年度から支援を開始。2023年度は、ALAで学ぶ学生への奨学金の支給や、企業が直面する課題に対し、ALAの学生たちが解決方法を提案するプログラムを支援し、社員も講師役となって学生たちと交流しています。

MCFEA 三菱商事欧州アフリカ基金

Mitsubishi Corporation Fund for Europe and Africa

1992年に三菱商事と英国三菱商事が設立した財団です。「環境保全の推進」、「環境を重視した教育・研究活動の支援」、「貧困削減」をテーマに、欧州およびアフリカで活動するさまざまなパートナーを支援しています。

地図で見る社会貢献活動

インクルーシブ社会の実現　次世代の育成・自立　環境の保全　災害支援

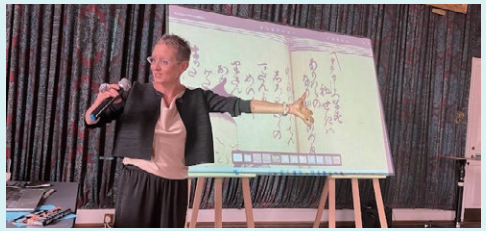
1 日本語学科生に専門用語習得などを支援
イタリア

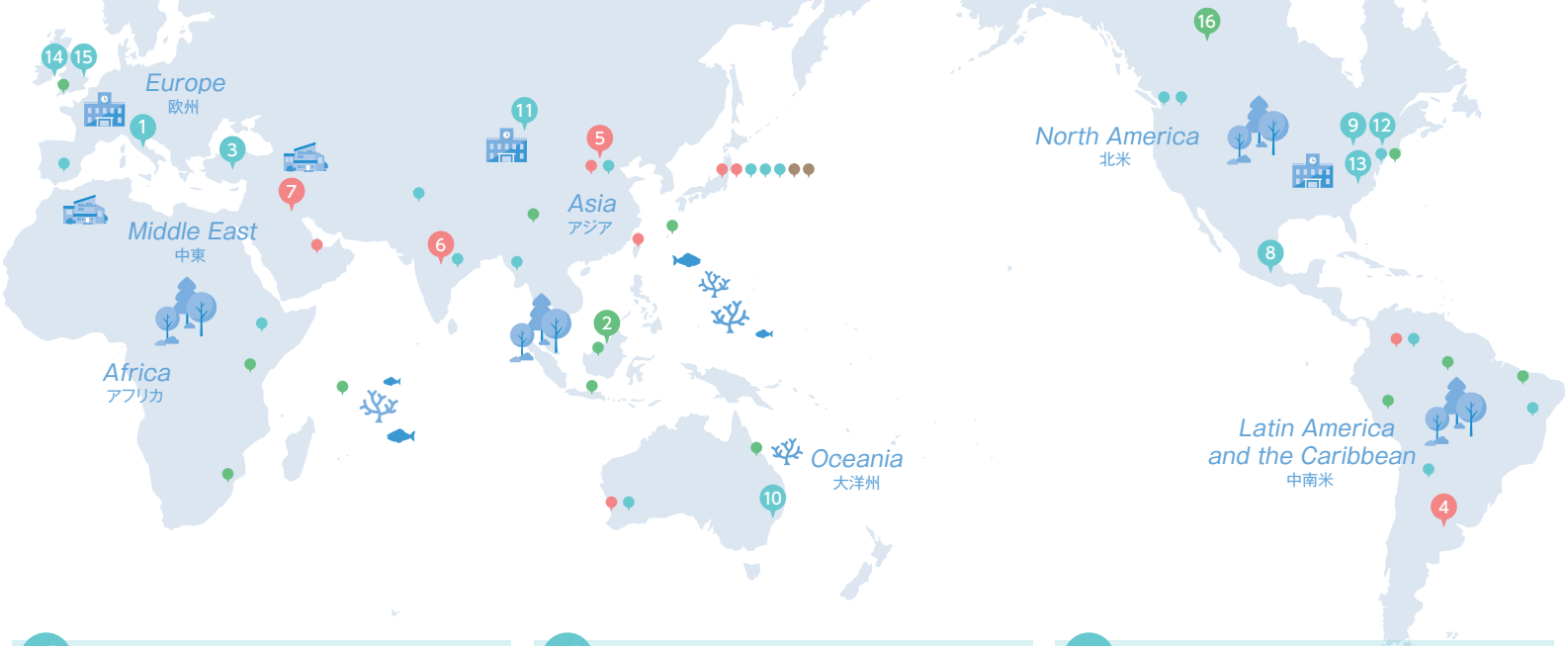
2 気候変動の認識を広め、国家戦略を後押し
ブルネイ

16 先住民主導の自然保護支援
カナダ

© Carla Santana Torres

15 ケンブリッジ大学への支援
イギリス





14 大英博物館への支援
イギリス

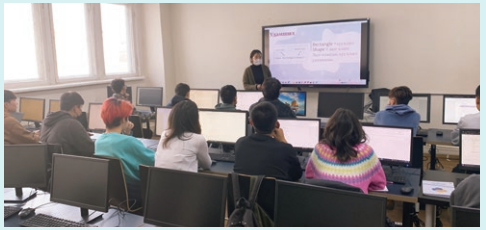
©The British Museum

13 スミソニアン国立アジア美術館への寄付
アメリカ

12 NPO法人ジャパン・ソサエティーへの支援
アメリカ

@Ayumi Sakamoto.

11 人工知能（AI）教育導入を支援
モンゴル



3 サステナビリティ意識向上へ学生向けセミナー開催
トルコ

4 ダウン症の若者の社会的受容をサポート
アルゼンチン

5 障がい者民間サッカー大会の開催支援
中国

6 車いすラグビーの活動支援
インド

7 自閉症の子どもたちの保護・支援
イラク

8 農業研修支援
メキシコ

10 先住民識字率向上基金への支援
オーストラリア

9 ニューヨーク植物園への支援
アメリカ

数字で見る 社会貢献活動

奨学金を給付した学生数
約17,600名

MC International Scholarship (2000年～)
約10,000名
(2022年3月末現在)

三菱商事留学生奨学金 (1991年～)
1,873名
(2023年5月末現在)

三菱商事アート・ゲート・プログラム奨学金 (2008年～)
200名
(2023年3月末現在)

ダルニー奨学金 (1995年～)
342名
(2023年8月末現在)

三菱商事 (2019年～) 高校生海外留学奨学金
194名
(2023年8月末現在)

三菱商事 (2021年～) 科学技術学生奨学金
62名
(2023年3月末現在)

東日本大震災復興支援学生支援奨学金 (2011年～)
4,907名
(2020年3月末現在)

発達障がい児向けスポーツ教室「DREAMクラス」参加者数
(2014年～)
2,548名
(2023年7月末現在)

母と子の自然教室参加者数
(1974年～)

母子
17,951名

社員ボランティア
1,194名
(2023年8月末現在)

現在支援している国・地域数
(2023年9月末現在)
延べ **60カ国・地域**

パラアスリート支援人数
(2015年～)
7名
(2023年8月末現在)
(DREAM奨学金で支援した10名を除く)

翻訳絵本の寄附冊数
(2005年～)
36,461冊
(2023年8月末現在)

トークン数 (2005年～)
141,403トークン
(社員ボランティア参加総数)

社員のボランティア活動を、トークンという仮想通貨に換算(活動1回につき1トークン=500円)し、会社が福祉、教育、環境関連のNPOや財団に寄附する仕組みを整備しています。
(2023年8月末現在)

TABLE FOR TWO 支援給食数 (2009年～)
271,956食
(2023年6月末現在)

ボランティア休暇 (2005年～)
取得日数
4,603日

取得人数
2,709名
(2023年3月末現在)

博物館・美術館プログラムの招待者数
(2005年～)
17,705名
(2023年8月末現在)

年表で見る社会貢献活動

～50年の歴史を辿る～

1973
社会環境室を設置

1974
母と子の自然教室開始
人工臓器の研究・開発開始

1975
リモート・センシング技術の
研究開発援助開始

1979
東京コロニーへの支援開始
太陽の家への支援開始

1983
三菱商事太陽 設立

1990
地球環境室を設置
熱帯林再生プロジェクト（マレーシア）開始

1991
社会貢献に関する基本理念 制定
社会貢献委員会設置
三菱商事留学生奨学金 開始
大分国際車いすマラソン大会 支援開始
三菱商事米州財団（MCFA） 設立

1992
熱帯林再生プロジェクト（ブラジル）開始
三菱商事欧州アフリカ基金（MCFEA） 設立
ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センターへの支援開始

1993
丸の内市民環境フォーラム開始

1995
阪神淡路大震災 義援金贈呈

1996
環境レポート の発行開始

1997
社会環境室と地球環境室の統合により 環境室 設置
ISO14001 認証を本店にて取得
長野パラリンピック通訳ボランティア社員参加

2000
MC International Scholarship 開始

2003
サステナビリティ・レポートが
「持続可能性報告大賞（環境大臣賞）」受賞

2005
サンゴ礁保全プロジェクト 開始
博物館・美術館プログラム 開始
社員のボランティア活動をカウントする**トークン制度** 導入

2007
外部有識者による
環境・CSRアドバイザリー・コミッティー 設立

2008
三菱商事アート・ゲート・プログラム 開始
YMCAインターナショナルチャリティーラン支援開始
大英博物館日本ギャラリー
の10年間のスポンサーシップ決定

2009
三菱商事千年の森（彌太郎の森）森林保全活動開始
スマイル アフリカ プロジェクト 支援（シューズ寄贈）開始

2010
国連グローバル・コンパクトに参加
三菱商事環境憲章制定

2011
環境マネジメントシステム 環境方針 制定
東日本大震災復興支援活動 開始

2012
三菱商事復興支援財団が公益財団法人に認定
CSRステーション**MC FOREST** オープン

2013
夏休みMC FOREST SCHOOL開始

2014
三菱商事社会憲章制定
パラスポーツ応援プロジェクト **DREAM AS ONE.** 開始
障がい児スポーツ教室「DREAMクラス」を開催

2015
「第25回かすみがうらマラソン 兼 国際盲人マラソンかすみがうら大会」への協賛開始

2019
三菱商事高校生海外留学奨学金 開始

2020
新型コロナウイルス感染拡大 への支援
「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」への支援開始
「認定NPO法人キッズドア」への支援開始

2021
三菱商事科学技術学生奨学金 開始

2022
自然の力を活用した気候変動対策
（Natural Climate Solutions（南アフリカ））を開始

発行日　2023年10月1日
発行所　三菱商事株式会社　総務部
東京都千代田区丸の内2-3-1

本誌記事の無断転載を固く禁じます。
©2023 Mitsubishi Corporation

社会貢献活動
ウェブサイトはこちら▼

UD FONT